

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001018		
法人名	(株) アイリスマーク		
事業所名	グループホーム ふれあい小樽稲穂		
所在地	〒047-0032 北海道小樽市稲穂1-1-1		
自己評価作成日	平成24年11月29日	評価結果市町村受理日	平成25年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172001018-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172001018-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 25年 3月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・利用者それぞれの能力、好みや特性を考慮し、可能な限りではあるが、それを生かせる場面、活躍できる機会を設け、参加してもらえるような支援に努めている。(ポスター、アイロン、裁縫…)</p> <p>・時節毎の行事にはイベントを開催し、利用者に喜んで、楽しんでもらえるよう、レクリエーション委員会を中へ心時間を割き、ご家族にも参加して頂くなど、交流を積極的に行っている。</p> <p>・今年度は、近隣の保育園や小学校のボランティアなどの受け入れ、外部との交流にも積極的に取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>小樽市中心部の商店街の一角に位置する2ユニットのグループホームです。建物は3階建てで、2～3階が各ユニットと居室、1階に広いイベントホールと事務所があります。近くに多くの商店や飲食店があり、病院も近く利便性に優れています。また、ホームの隣接地が手宮線跡の公園になっており、散歩を楽しむことができます。地域交流の面では、目標としていた保育所や小学校との交流が実現し、利用者の楽しみとなっています。介護サービスの面では、職員の意見を集約してきめ細かな介護計画を作成し、計画に沿った支援を提供しています。介護計画や記録など各種の書類も見やすく整理しています。食事の面では、利用者の希望を聞きながら、栄養バランスや彩りを考慮したおいしい食事が提供されており、多くの利用者が食器拭きなどの後片付けに参加しています。職員全員で個々の利用者を大切に、利用者は明るく健康的にホームの生活を楽しくしています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で話し合い、全員で取り組めるものにしようと意見を出し合ったが、実践には至ってはならず、現状の理念を共有、実践している。	運営理念の中に「地域の一員として」という文言を掲げ、地域密着型の理念としていますが、理念は同一法人のグループホームと共通で独自のものではなく、現在、ホーム独自の理念を検討中です。運営理念を共用部分に掲示し、共有しています。	職員全員の意見を反映した独自の理念を検討中とのことなので、引き続きその取り組みを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、避難訓練等で協力を頂いたり、民生委員、町内会の方に運営推進会議にも参加してもらい、意見交換を行っている。近隣業者への交流は限定されるものの親密になってきている。	商店街近くにあるため、利用者と職員と一緒に八百屋などに訪れ、顔なじみになっています。保育所の園児が敬老会やクリスマス会に事業所を訪問しています。小学生の体験学習も受け入れたり、踊りのボランティアの訪問もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単位では、地域の人々に向けて積極的な活動はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っており、会議では事業所からの報告、参加者からの意見、要望を聞きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、多数の家族の参加を得て意見交換しています。防災や感染症などのテーマを設定しており、討議内容を文書にして家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に相談し、指導を受け、協力関係を築くよう務めている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ており、センターには随時、事故の報告や相談を行っています。また、年2回の市の集団指導にも参加し、市の職員と情報交換をしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解、しないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルを整備しています。また、外部研修の資料を参考に勉強会も行っています。1階の玄関は夜間のみ施錠しており、日中は自由に出入りすることができます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で状況の確認をしたり、日常的に虐待についてスタッフ間で話題に出し、認識確認、防止を徹底するよう務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学んでいる職員はいるが、職員全員が理解している状態ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と口頭で十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望を聞くようつとめている。運営推進会議でもお聞きし、出来る限り反映させるよう務めている。	家族が来訪した際や電話をした際に意見を聞いています。また、運営推進会議にも多数の家族が参加しています。毎月の「ふれあいだより」と、個人別のお便りを家族に送り、利用者の様子を伝えていきます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の間での意見交換をする機会は少なく、運営に関し反映はあまりされていない。	月1回、責任者会議とユニット毎のフロア会議およびカンファレンスがあり、職員同士の活発な意見交換がなされています。管理者と職員の個別面談もその都度実施しています。レクリエーションや防災・事故、衛生管理などの委員会に職員が参加し、役割を持って運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望、意見に耳を傾けてはいるが、給与水準、仕事へのやりがい等、各自に向上心を導き出せるような体制には不十分であり、職場環境、条件が整備されるには至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加の機会が以前よりも減っている。また、現状にゆとりがない部分もあり、個々の向上心、意欲の低下や、気持ちはあっても時間がなかったり、現状に適した内容でなかったりと十分とは言えない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修を実践しており、サービスの質を向上させるよう努めているが、前年よりも体制的に毎月とはいかず、積極的な取り組みができていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、心身の状態や思いに向き合い、本人が安心するような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から要望等をしっかりと聴き、良い関係づくりに努め、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談から本人、ご家族の思いや状況を把握し、必要としている身体的、精神的支援の提供が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、教えてもらう場面も多く感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事等を伝えたり、ご家族をホームの行事にお誘いしたりして本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話での交流支援の他、行きつけの美容院など、馴染みの間柄との関わりを本人の要望に応じ、支援している。	友人や知人が来訪して一緒に外出する利用者もあり、電話のやりとりなども支援しています。行きつけの理美容室に車で送迎したり、近くの喫茶店や菓子店、八百屋などへの外出も同行して、馴染みの場所との関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係には常に気を配りトラブルの兆しが見えた時点で対応している。トラブルが発生した時は職員が関係修復に努め支援している。また、利用者間での交流、支え合いなどの場面を見守り、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的にとまではいかないが、契約終了後も本人、ご家族の相談や支援に取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気無い会話や行動、表情から思いや意向をくみ取り職員間で情報交換し把握に努めている。	言葉で思いや意向を表現するのが難しい場合も、コミュニケーションの中から意向を把握しています。利用者毎の基本情報シートと課題分析シートを常に更新し、情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の他、その後もご家族、本人との情報収集の場面を持ち、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し心身状態、有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、主治医の意見を取り入れ、会議などで職員同士で話し合い介護計画を作成している。	介護計画は3ヵ月で見直し作成しています。担当者によるモニタリングをもとにカンファレンスで職員一人ひとりの意見を集約して、次の計画を作成しています。日々の記録には、ケアプラン用と個別日報の欄を設け、ケアプランを参照しながら実践状況を記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別日報にケアの実践、結果等を記入し、全職員が情報を共有する体制になっており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院、外出等必要な支援や対応を可能な限りにおいて柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分な地域資源の把握、支援は出来ていないが、近隣との協働によるイベントなどへの参加や、暮らしを楽しんで頂く場面も少ないながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿ったかかりつけ医となっており、利用者それぞれのかかりつけ医に相談指示を仰ぎながら関係向上に努めている	協力医療機関による2週に1回の往診があり、その他のかかりつけ医を受診する場合も、家族の同行が難しい場合はホームで通院を支援しています。受診内容を個人毎に「受診・往診記録表」に記録し、情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等を報告し相談しながら指示を仰いでいる。往診前の他、必要に応じた状態報告・相談を事前にFaxで、また、緊急の場合は電話にて行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、本人や家族、病院関係者から状態を聞き取る事により、病院関係者との関係作りに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ご家族、病院に伝え話し合いを行っている。それぞれの立場を理解し支援に努めている。家族への気持ちの聞き取りは、経過により複数回行う様努めている。	重度化した場合は、法人の「終末期における看取り介護マニュアル」に沿ってホームの方針を本人、家族に説明しています。過去に看取りの経験はありますが、医療行為が必要な場合などの看取りは難しい旨も説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにAEDを設置し、普通救命講習の受講や、ホーム内でのデモンストレーションを行ったが、継続には至っておらず、また新しい職員への受講、指導は滞っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの避難訓練の他、避難道具の検討、お試し導入を行った。しかし、以前のようなホーム内で定期的に行っていた避難訓練が出来ておらず、不慣れな職員も多い	年2回、日中を想定した避難訓練を消防や地域の方の協力のもと行っています。職員の救急救命訓練も定期的な受講を進めています。一方、水や食料等の備蓄品は未整備のものもあります。	年2回の避難訓練のうち1回は夜間を想定した訓練を実施することを期待します。また、災害時に必要な水や食料などの備蓄品の確認と用意、および地震等の際の対応について職員間で確認することを期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時に馴れ合い的な対応に陥る場面もあるが、人格を尊重し、利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応に努めている。	呼びかけは「さん」づけを基本としており、職員は利用者の人格やプライバシーを尊重して丁寧に接しています。個人ファイルや記録類もカウンターの戸棚に安全に保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に応じ、日常生活の中で自己決定出来るよう支援、場面作りに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って買い物などの支援や、本人のペースに沿う様努めているが、職員側の都合を優先せざるを得ない場面もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿う様、また、その人を理解してお洒落して貰える様、考え支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や後片付け等、利用者それぞれが出きる事を職員と一緒に、また見守りの中行っている。	献立をホームで作成し、彩り豊かなおいしい食事が提供されています。誕生日には利用者の希望をメニューに反映しています。利用者と職員と一緒に楽しく食事しており、多くの利用者が食器拭きなどの後片付けに参加しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの状態に応じて摂取量の調整や食事の形状の工夫の他、言葉掛けによる支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医のアドバイスの実施、利用者に応じた仕上げ磨き、声掛け等の支援をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じたリハパン、パットのを使用を行っている。食事前など、定期的な排泄の声かけ、支援に努めている。	トイレ誘導が必要な方は、生活記録に排泄状況を記録し、パターンを把握して誘導しています。誘導の際は羞恥心に配慮し、耳元でさりげなく声掛けしたり、他の方から離れて声掛けしています。誘導によりオムツやリハビリパンツの使用を減少できた例もあります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し下剤など薬の服用・量を調整する他、水分、乳製品の摂取、運動を取り入れて対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人訴えがある場合は、可能な限りで対処しているが、職員ベースで順番など決めてしまう事が少ない。入浴中は、一対一でのコミュニケーションを楽しんで頂ける様に配慮している	日曜日を除く毎日、午後の時間帯に各利用者に対して週2回以上の入浴を支援しています。入浴を拒む場合は時間を置いたり、職員を替えて入浴を促しています。安心のため同性介助としたり、入浴しながら利用者と職員が話を楽しんでいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の活動を促し生活リズムが安定するよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬日誌を活用し、薬の変更、注意点等、職員全員が把握できるようにしている。薬剤師へ質問を行い、薬知識の習得に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみ事や気分転換、役割意識を感じて頂ける様、イベントの実施、日常の生活の中で活躍の場面作りに努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望としては十分に対応できていないが、ご家族や地域の人達の協力を得ながら、外出を計画したり、可能な限りで支援している。	ホーム隣の線路跡の公園を散歩したり、近くの商店などに出かけています。利用者の誕生日に夕食を楽しむこともあります。年間行事では花見や水天宮祭、潮祭り、レストランへの夕食などに出かけています。冬は外出が減りますが、1階のイベントホールで歩いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、ご家族の希望や力に応じ、支払い可能な方に関しては、外出時に定額のお金を所持して頂き、自力支払いの見守り、支援を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状作成支援、ご本人の訴えの他、職員からの声掛けで電話をかけを支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・温度・湿度等に配慮すると共に、季節に合った壁紙を一緒に作ったり、花を生けて頂いたり、絵や思い出の写真などの装飾、備品類等で演出する事により、季節の移り変わりを認識、楽しんでもらえる様工夫している。	居間と食堂が一体的で、中央のキッチンや職員カウンターから共用空間全体を見渡すことができます。壁には絵画や行事での写真、季節の装飾などが飾られ、家庭的な雰囲気をつくっています。温度や湿度、明るさも調整され、清潔に保たれています。トイレや浴室も使いやすく造られています。また、1階のイベントホールで様々なレクリエーションを楽しんでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVや新聞を見たり、思い思いに過ごして頂いている。また相性の悪い利用者同士の空間確保には配慮している。他階の方との交流の場（月1回の喫茶）を設けている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた物、思い出の品々を希望に応じ、持ち込んで頂いている。各居室の飾り棚には各利用者の好みの品を飾って頂いている。	居室入口には埋め込み式の飾り棚があり、利用者はそれぞれ好みの飾りを置いています。室内には利用者の使い慣れたテレビやタンス、ソファ、仏壇などを自由に持ち込んでいます。壁にもカレンダーや写真など、好みのものを自由に飾ることができています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ミーティング等で話し合い、各利用者が安全で自立した生活が送れるよう工夫し、支援に努めている。			